

英米文学科同窓会第43回講演会

文学部英米文学科共催（学科在学生歓迎）

飛行機の安全運航に必要な英語

講師 鈴木郁雄氏（全日本空輸 国際線機長）



1966 年生まれ。1990 年 3 月に青山学院大学文学部英米文学科を卒業。同年 4 月に全日本空輸(ANA)にパイロット訓練生として入社。1993 年 10 月にB767の副操縦士に任用。その後、B747-400(ジャンボジェット)の副操縦士としての乗務を経て、2003 年に機長に昇格。B767 の機長として 8 年半、2012 年以降は、B787 の機長として国内線、国際線に乗務。現在は路線訓練教官として主に機長昇格訓練の指導に従事。(総飛行時間:約 18000 時間、B787 飛行時間:約 7700 時間)



ANA の飛行機は 24 時間、365 日、常に世界中へ Flight しています。その飛行機に乗務するにあたって、我々 Pilot が安全運航を守るためにどのようなことをしているのか?“英語”という一面からご紹介したいと思います。

パイロット訓練生として採用後、プロペラ機を使用した基礎訓練はアメリカの訓練所で行います。Manual 類や Chart 類は英語で書かれたものを理解し、教官はアメリカ人です。管制官との通信も英語です。訓練の初期の段階からある程度の英語力が求められますが、実際に副操縦士として Line 運航を始めると時を経ずして国際線に乗務するようになります。国際線に乗務するにあたり、航空英語能力証明というライセンスが求められます。今回は航空英語能力証明の内容と試験内容について簡単に紹介します。

管制官との通信は音声通信でなされますが、相互に誤解や Error を生じさせないために、管制通信で使われる用語は Standardization されています。Pilot も管制官も負荷のかかる中、様々な Task をこなす中において、我々のようなアジア人や南米の人の英語であっても明確かつ端的に意図が伝わるように、長年の歴史の中で工夫されています。簡単な英語学、音声学の視点から管制通信の工夫について紹介します。

最後に Pilot の仕事に興味を持っていただいている在学生の皆さんに、ANA の自社養成パイロットの採用試験と採用後、副操縦士になるまでの訓練の概要について紹介させていただきます。

日時： 2025 年 3 月 15 日(土) 14:00~16:00

会場： 第 19 会議室（総研ビル 11 階）

開催形式：対面(基本) + Zoom meeting のハイブリッド形式（後日アーカイブ配信を予定）

参加費： 無料（現役学生も歓迎です。なお、非会員のご友人をお誘いの際は、準備の都合などもありますのでご一報ください。）

申込方法：下記の英米文学科同窓会ホームページ掲載の「参加申込フォーム」より **2月28日(金)まで**にお申し込みください。

※パソコン等を使用されない方は別紙の FAX 用紙にご記入の上、送信をお願いいたします。

問合せ先： 青山学院大学英米文学科同窓会

E-mail aogaku.eibun.alumni2020@gmail.com

FAX 03-3409-8975（大学部会事務局内）



英米文学科同窓会 HP



参加申込フォーム